

第5回 NPO法人会計講座

令和元年9月

節目の第5回です。

この会計講座、全何回って、決めていません(^_^)

そのときそのとき、この情報も伝えた方がいいよねと、(いい意味で)「柔軟に」作成しております。

伝えたいことや伝え方を模索しながら作成しているので、全何回になるのかは、私自身もつかめていない状況です。

・・・決して行き当たりばったりではないですよ。。たぶん(^_^)

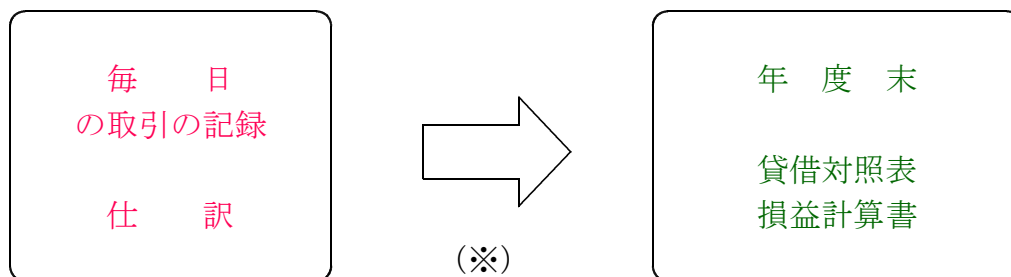
さて、今回は、

実務的な「仕訳」(しわけ)について、入っていきたいとおもいます。

第2回で少し触れましたが、

仕訳とは簡単に言うと、「企業が全ての取引について行う記録」のことを言います。

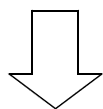
この仕訳の積み重ねが、「貸借対照表」や「損益計算書」になっていくのです。



(※) 実際は、この間にいくつかの過程があるのですが、ここでは考えなくてOKです。

前ページの話をもとめるところになります。

- ① 仕訳では、全ての取引を記録する。
- ② 仕訳の積み重ねが「貸借対照表」か「損益計算書」になっていく。



これはつまり・・・

仕訳で記録される項目は必ず、
「貸借対照表」の項目か
「損益計算書」の項目のどちらかしかない！！

ということになります。

第2回では、あえて貸借対照表の項目同士の取引の仕訳を持ち出したのですが、

(第2回の例1)

自動車 800 / 現金 800
↑資産の部 ↑資産の部

(第2回の例2)

現金 1,000 / 借入金 1,000
↑資産の部 ↑負債の部

実務では、これに損益計算書項目が混在してきますので、今回と次回にかけて、
いろいろなパターンの仕訳を学んでいただく事がテーマとなります。

では、今回は、貸借対照表項目のみの仕訳のケースを学習しましょう。

・第2回のおさらい1

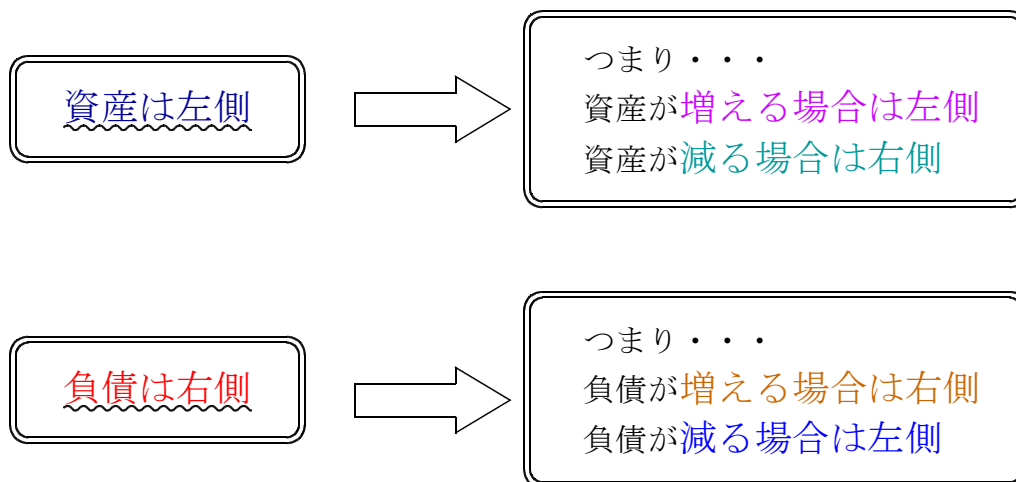
《貸借対照表のフォーム》

貸借対照表(H31.3.31)

(借方)	(貸方)
資 産	負 債
	純資産

・第2回のおさらい2

《考え方》



では、上のおさらいを参考にしながら、仕訳の問題を実際に解いてみましょう！

問1) 備品を500円で売却し、現金で受け取った。

(答え) 現金 500 / 備品 500

(解説)

備品は資産の部 (手放したので物が「減る」)

現金も資産の部 (受け取ったので手持ちが「増える」)

問2) A社に対する売掛金400円を現金で回収した。

(※) 売掛金が、初めてできましたが、簡単にいうと「ツケ」です。
売掛金とは、ものを売ってそのときにお金を受け取らず、お客にツケている額のこと、「資産」になります。

(答え) 現金 400 / 売掛金 400

(解説)

売掛金は資産の部 (現金と引き替えたのでツケが「減る」)
現金も資産の部 (受け取ったので手持ちが「増える」)

問3) B社に対する買掛金700円を現金で支払った。

(※) 買掛金とは、売掛金の逆です。
買掛金とは、ものを仕入れて、そのときにお金を支払わずにツケが残っている額のこと、「負債」になります。

(答え) 買掛金 700 / 現金 700

(解説)

買掛金は負債の部 (現金で支払ったのでツケが「減る」)
現金は資産の部 (支払ったので手持ちが「減る」)

問4) 銀行からの借入金のうち、今月の返済分500円が口座から引き落とされた。

(答え) 借入金 500 / 預金 500

(解説)

借入金は負債の部 (口座引落としで支払ったのでその分が「減る」)
預金は資産の部 (支払ったので口座残高が「減る」)

問5) C社に対して、現金で600円貸し付けた。

(答え) 貸付金 600 / 現金 600

(解説)

貸付金は資本の部 (貸付金が「増える」)
現金は資産の部 (貸し付けたことにより手持ちが「減る」)

今日はここまでにします。

いかがでしたか？

第4回までは、「貸借対照表」や「損益計算書」といった、いわば完成物（アウトプット）を元にして、会計について学習をしてまいりましたが、

今回は、仕訳という会計実務の最初のステップを学習しました。（下からの学習）

仕訳ができるようになれば、貸借対照表や損益計算書がどのようにできているのか、これは何を表しているのか。など頭の中で回路がつながってきます。

仕訳の練習って、野球で言うところの「キャッチボールの練習」のようなものです。

地味な作業のような気がするのですが、仕訳が自然とできるようになれば、応用力が高まってきます。

ということで、
次回も仕訳について説明いたしますので、頑張りましょう！！

